茨城県教育財団文化財調査報告第187集

稲 岡 遺 跡

一般国道6号牛久土浦バイパス改築工事地内
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書

平 成 14 年 3 月

国土交通省　常総国道工事事務所
財 団 法 人　茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第187集

稲（いな）岡（おか）遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス改築工事地内
埋蔵文化財調査報告書

平成14年3月

国土交通省　常総国道工事事務所
財団法人　茨城県教育財団

序

一般国道6号は，首都東京と仙台とを結ぶ幹線道路であり，産業，経済活動を支える主要な路線であります。

しかし，近年県内においては牛久駅，荒川沖駅周辺の市街地で，地域の生活交通と通過交通によって，慢性的な渋滞が生じています。国土交通省は，これを解決するため，牛久土浦バイパスの建設を進めており，さらにこの道路が首都圏中央連絡道（圏央道）へのアクセス道路として機能することにより，沿線地域の活性化が期待されます。その改築工事予定地内に稲岡遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省常総国道工事事務所と埋蔵文化財発掘調査についての委託契約を結び，平成12年4月から5月まで稲岡遺跡の調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構，遺物が確認され，郷土の歴史を解明する上で多大な成果をあげることができました。

本書は，稲岡遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土への理解を深めると共に，教育，文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理作業を進めるにあたり，委託者である国土交通省常総国道工事事務所から賜りました多大なる御協力に対し，深く感謝申し上げます。

また，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力を賜りましたことに対し，衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　齋藤佳郎

例　　言

1　本書は，国土交通省常総国道工事事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成12年度に発掘調査を実施した茨城県つくば市に所在する稲岡(なおか)遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調　査　平成12年４月１日～平成12年５月31日

整　理　平成13年４月１日～平成13年５月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久の指揮のもと，調査第１班長海老澤稔，主任調査員小澤重雄，大岡武が担当した。

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長川井正一の指揮のもと，主任調査員茂木悦男が担当した。

5　発掘調査及び整理に際し，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X軸＝＋3,536m，Y軸＝＋27,552mの交点を基準点（A 1 a1）とした。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C･･･，西から東へ1，2，3･･･とし，「A 1区」，「B 2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へ a，b，c ･･･ j，西から東へ 1，2，3 ･･･ 0とし，名称は大調査区の名称を冠し，「A 1 a1区」，「B 2 b2区」のように呼称した。

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　土坑－ＳＫ　溝－ＳＤ　井戸－ＳＥ

遺物　土器－Ｐ　石器・石製品－Ｑ　金属製品－Ｍ　拓本記録土器－ＴＰ

土層　撹乱－Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

炭化　漆

● 土　器　□ 石器・石製品　△ 金属製品　▲ 木　器

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は150分の１，各遺構の実測図は60分の１の縮尺で掲載することを基本とした。

(2)　遺物は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6　「主軸方向」は，長軸（長径）方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　N－10°－E）

7　土器の計測値の単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

8　遺物観察表の備考欄は，土器の現存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

9　遺物番号については，土器，拓本のみ掲載の土器片，土製品，石製品，金属製品，木器ごとに通し番号とし，挿　図，観察表，写真図版に記した番号は同一とした。

10　遺構一覧表における計測値は，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

抄　　録

ふ り が な	いなおかいせき
書　　名	稲 岡 遺 跡
副 書 名	一般国道６号牛久土浦バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書１
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第187集
著 者 名	茂木悦男
編 集 機 関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　ＴＥＬ　029－225－6587
発 行 機 関	財団法人　茨城県教育財団
所　在　地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　　ＴＥＬ　029－225－6587
発　行　日	2002（平成14）年３月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
稲岡遺跡（いなおかいせき）	茨城県（いばらきけん） つくば市 大字稲岡（おおあざいなおか） 字観音堂（あざかんのんどう） 397ほか	08220 － 64	36度 1分 53秒	140度 8分 24秒	20 ～ 21m	20000401 ～ 20000531	200㎡	一般国道６号牛久土浦バイパス改築工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
稲岡遺跡	墓跡	中・近世	土坑　16基 井戸跡　2基 溝跡　4条	土師質土器（焙烙・皿・擂鉢），陶器（碗），磁器（碗・皿），古銭（熙寧元寶・永楽通寶），鋼製品（小鈴），木製品（漆器椀・櫛・荷札）	中・近世の墓跡と思われる。溝跡からは土師質土器や陶磁器が，井戸跡からは木製品が出土している。
	その他	旧石器		剥片	
		奈良・平安		土師器（坏，甕）須恵器（坏，甕）	
		不明	土坑　1基 井戸跡　1基	木製品	

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
第1章　調査経緯 …… 1
　第1節　調査に至る経緯 …… 1
　第2節　調査経過 …… 1
第2章　位置と環境 …… 3
　第1節　地理的環境 …… 3
　第2節　歴史的環境 …… 3
第3章　調査の成果 …… 7
　第1節　遺跡の概要 …… 7
　第2節　基本層序 …… 7
　第3節　遺構と遺物 …… 7
　　1　中・近世の遺構と遺物 …… 7
　　(1)　土坑 …… 7
　　(2)　井戸跡 …… 14
　　(3)　溝 …… 18
　　2　時期不明の遺構と遺物 …… 25
　　(1)　土坑 …… 25
　　(2)　井戸跡 …… 25
　　3　遺構外出土遺物 …… 26
　第4節　まとめ …… 27
遺構一覧表
写真図版

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

国土交通省は，茨城県つくば市稲岡地区において，一般国道6号牛久土浦バイパス工事の建設を進めている。

平成10年1月7日，建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無と，その取り扱いについて照会があった。

平成11年5月26日，茨城県教育委員会はつくば市稲岡地区の現地踏査を実施した。その後，平成12年2月2・3日に試掘調査を実施した。平成12年2月10日，茨城県教育委員会教育長は建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長あてに，一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内に稲岡遺跡が所在する旨回答した。

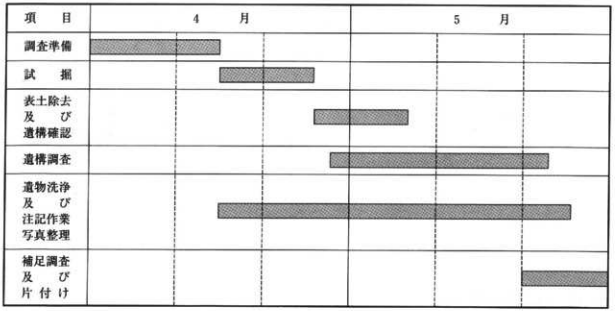
平成12年3月13日，建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに，一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内における埋蔵文化財（稲岡遺跡）の取り扱いについて協議書が提出された。

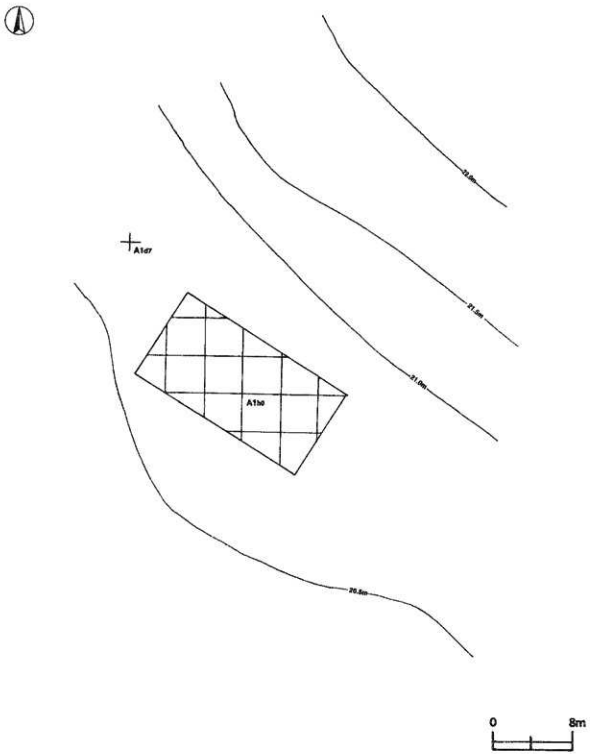
平成12年3月21日，茨城県教育委員会教育長から建設省関東地方建設局常総国道工事事務所長あてに，稲岡遺跡について，記録保存のための発掘調査を実施するよう回答した。調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

建設省関東地方建設局常総国道工事事務所と茨城県教育財団は，埋蔵文化財発掘調査に関する業務委託契約を結び，平成12年4月1日から平成12年5月31日にかけて，稲岡遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調　査　経　過

稲岡遺跡の調査は，平成12年4月1日から平成12年5月31日までの2か月間実施した。以下，調査の経過について，その概要を表で記載する。





第１図　稲岡遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

稲岡遺跡は，茨城県つくば市大字稲岡字観音堂397番地ほかに所在し，東は土浦市，南は牛久市及び茎崎町に隣接している。なお，当遺跡は旧谷田部町に属していた。

遺跡周辺の地勢は，標高23m前後の筑波稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は西を小貝川，東を桜川によって区切られ，その流域には沖積地が発達し，両河川の間には東から花室川，乙戸川，小野川，東谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れている。

筑波稲敷台地は，茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり，地質的には新生代第四紀更新世に形成された層が基盤となっている。地層は下層から竜ヶ崎砂礫層，常総粘土層，関東ローム層が順次堆積している。

当遺跡は，小野川左岸の標高19～20mの台地の下位段丘に位置している。台地は，1～2mの比高をもって小野川の流れる沖積地に臨んでいる。台地上はほぼ平坦であり，遺跡はこの台地の西側に立地している。遺跡周辺の土地利用状況は，主として宅地・畑地・平地林であり，小野川流域の沖積地は主に水田として利用されている。遺跡の現況は，畑地であった。

第2節　歴史的環境

稲岡遺跡が所在する地域は，小野川，乙戸川水系によって開析された台地上に位置し，多くの遺跡が存在している（第2図）。ここでは，小野川，乙戸川流域の遺跡を中心に述べることにする。

旧石器時代の遺跡は，茎崎町の樋の沢久保遺跡〈2〉，下大井遺跡〈3〉，牛久市のヤツノ上遺跡，中久喜遺跡がある。ヤツノ上遺跡・中久喜遺跡からは，ナイフ形石器・剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は，小野川沿いに多く，つくば市の下横場古墳群〈7〉，茎崎町の樋の沢久保遺跡，下大井遺跡大井遺跡〈13〉，牛久市の馬場遺跡〈15〉，東山遺跡〈16〉，坂本遺跡〈18〉，守小橋遺跡〈19〉等がある。樋の沢久保遺跡からは中期の縄文土器の破片が，下大井遺跡からは，早期から中期の破片が出土している。

古墳時代の遺跡は多く，小野川沿いに集落が存在していた。牛久市のヤツノ上遺跡，中久喜遺跡，中下根遺跡，牟人山遺跡は中期後半，馬場遺跡は中期から後期にかけての集落跡である。

奈良・平安時代の遺跡は，調査されたものが少ないが，平成11年度に調査された下大井遺跡からは，竪穴住居跡が11軒検出されている。

中世の遺跡は，旧谷田部町では，古屋敷遺跡，熊倉氏の古館跡（熊倉館跡），山田氏の高須賀城跡，平井手氏の面野井城跡，荒井氏の小野崎館跡，野中氏の刈間城跡などがある。古屋敷遺跡は，平成11年度に調査され，土師質土器や陶器が出土している。なお近年では，小田氏の小田城跡，豊田氏の手子生城跡，永守城跡，小泉館跡等が部分的に調査されている。茎崎町内では，下岩崎泊崎城跡，下大井遺跡，高崎城跡，御城跡，九万坪館跡，館山館跡などがある。下岩崎泊崎城跡は，内濠・外濠・土塁に囲まれた連郭式の平山城で，昭和54年の調査により本丸跡・濠・土塁などが確認されている。下大井遺跡からは，中世の塚墳墓と土壙墓が1基ずつ検出され，陶器・土師質土器・古銭等が出土している。

近世の遺跡は，前述した古屋敷遺跡，牛久市の田宮一里塚，小野川左岸の荒川沖一里塚が知られている。古屋敷遺跡は，江戸時代前半の屋敷跡で，土師質土器とともに肥前系磁器や瀬戸・美濃系陶器が多量に出土している。

※　文中の〈　〉内の番号は，表1，第2図の該当番号と同じである。

註

1）　茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年3月

2）　茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集　1993年3月

3）　茨城県教育財団「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書2　樋の沢久保遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第186集　2002年3月

4）　茨城県教育財団「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書1　下大井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第171集　2001年3月

5）　茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　中下根遺跡　西ノ原遺跡　牟人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集　1996年6月

6）　註5）に同じ

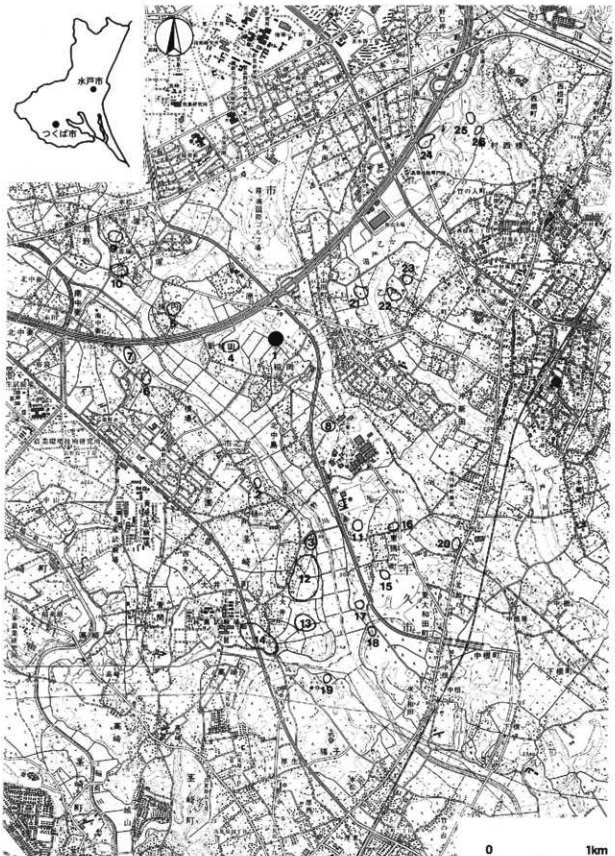
7）　茨城県教育財団「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　馬場遺跡　行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集　1996年3月

8）　茨城県教育財団「仮称萱丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　三度山遺跡　古屋敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集　1998年3月

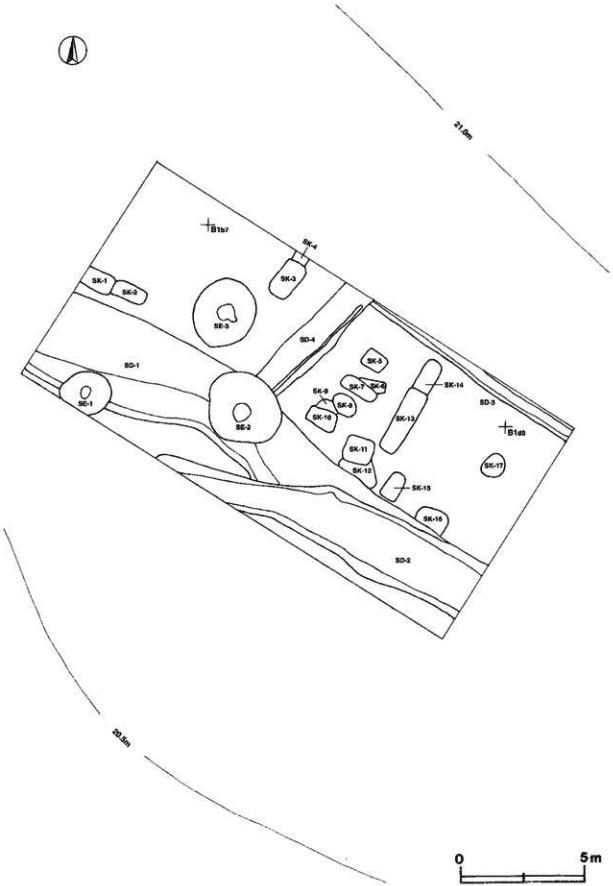
9）　圷崎町教育委員会『泊崎城跡』　1980年8月

表1　稲岡遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	番号	遺跡名	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	稲岡遺跡	○					○	○	14	五十塚古墳群				○			
2	樋の沢久保遺跡	○	○		○		○	○	15	馬場遺跡		○		○	○		
3	下大井遺跡	○	○		○	○	○	○	16	東山遺跡		○		○	○		
4	新牧田遺跡				○				17	行人田遺跡				○	○		○
5	梶内遺跡				○				18	坂本遺跡		○	○				
6	下横場遺跡				○				19	守小橋遺跡		○					
7	下横場古墳群				○				20	荒川沖一里塚							○
8	北中島遺跡				○				21	高山遺跡				○			
9	八木遺跡				○				22	後門遺跡				○	○		
10	駒形遺跡				○				23	乙戸町庚申塚					○		
11	大久保遺跡				○				24	長峰遺跡		○					
12	下大井古墳群				○				25	筐崎遺跡		○					
13	大井遺跡				○				26	石橋台遺跡		○					



第2図　稲岡遺跡周辺遺跡分布図（谷田部・土浦・藤代・牛久）



第3図　稲岡遺跡遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

梯岡遺跡は，中・近世を中心とした旧石器から中・近世にかけての複合遺跡である。調査前の現況は畑地で，調査面積は200㎡である。なお，当遺跡の1.5km南には樋の沢久保遺跡がある。

今回の調査によって，中・近世の溝１条，井戸跡２基，土坑16基，時期不明の井戸跡１基，土坑１基が検出された。

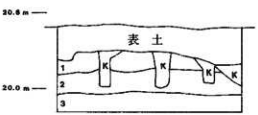
遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20cm）で５箱分が出土した。遺物は，中・近世の土師質土器（焙烙，皿），陶磁器が中心で，井戸跡からは木製品（漆器椀，桶，荷鞍）が出土している。他には，旧石器，土師器，須恵器，石製品（砥石），銅製品（小鈴），古銭（熙寧元寶，永楽通寶）などが出土している。

第2節 基本層序

調査区南部のＢ１a6区にテストピットを設定し，約１m掘り下げて，土層の堆積状況の観察を行った（第４図）。

１層は，褐色のハードローム層で，鉄斑の粒を少量含んでいる。層厚は12～25cmである。

２層は，褐色で，ハードローム層から常総粘土層への漸移層である。鉄斑の粒を少量含み，粘性・締まりとも強い。層厚は20cm～25cmである。



第４図 基本土層図

３層は，にぶい黄褐色の常総粘土層で，灰白色粘土と黄褐色粘土が混じっている。きめの細かい極めて小さな砂粒と，鉄斑の粒を少量含んでいる。粘性・締まりとも強い。層厚は15～21cmである。

遺構は，第１層上面で確認され，第１層から第３層にかけて掘り込まれている。

第3節 遺構と遺物

1 中・近世の遺構と遺物

遺構調査の結果，土坑16基，井戸跡２基，溝４条が検出された。そして，これらの遺構から在地産の土師質土器の焙烙，皿，擂鉢，陶磁器，古銭，木製品等が検出された。以下，概要を記述する。

(1) 土坑

第１号土坑（第５図）

位置 調査区の西部，Ｂ１b5区。

重複関係 第２号土坑の西部を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外となっている。確認できた長軸1.28m，短軸0.8mで，長方形と推定される。深さは12cmである。壁は，外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－63°－Wである。底面は，平坦である。

覆土　単一層である。ロームブロックや焼土，炭化粒子を含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片２点が，出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく，限定することは難しいが，近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。

第２号土坑（第５図）

位置　調査区の西部，Ｂ１b6区。

重複関係　西部を第１号土坑に掘り込まれている。

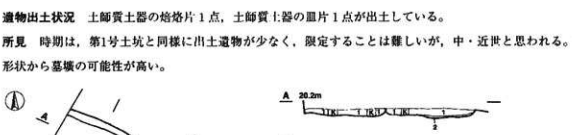
規模と形状　確認できた長軸1.40m，短軸0.62mで，長方形と推定される。深さは14cmである。壁は，外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－66°－Wである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。ロームブロック等を含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片１点，土師質土器の皿片１点が出土している。

所見　時期は，第1号土坑と同様に出土遺物が少なく，限定することは難しいが，中・近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。



第５図　第１・２号土坑実測図

第３号土坑（第６図）

位置　調査区の北部，Ｂ１b7区。

重複関係　第４号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.60m，短軸0.92mの長方形で，深さは8cmである。壁は，外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－32°－Eである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。各層の含有物から，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片７点，擂鉢片４点，甕片１点が出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世（16～17世紀）の可能性が高い。

第4号土坑（第6図）

位置　調査区の北部，B 1 b7区。

重複関係　南部を第3号土坑に掘り込まれている。

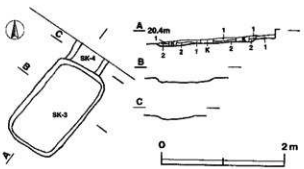
規模と形状　南部が第3号土坑に掘り込まれ，東側が調査区域外となっているので，確認できたのは東西軸0.3m，南北軸0.6mである。確認した範囲では，深さは5cmであるが，平面形や壁の立ち上がり，長軸方向は不明である。底面は，平坦である。

覆土　各層の含有物から人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　遺物は出土していないが，当遺跡の他の墓壙と形状が似ており，中・近世の墓壙の可能性が考えられる。



第6図　第3・4号土坑実測図

第5号土坑（第7図）

位置　調査区の中央部，B 1 c8区。

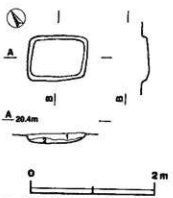
規模と形状　長軸0.96m，短軸0.74mの長方形で，深さは11cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－55°－Wである。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。各層に含まれる含有物から人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　陶器片1点が，出土している。

所見　時期は，出土遺物が少なく限定することは難しいが，陶器片から中・近世の可能性が高い。



第7図　第5号土坑実測図

第6号土坑（第8図）

位置　調査区の中央部，B 1 c8区。

重複関係　南西部を第7号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第7号土坑に掘り込まれているが，長軸1.15m，短軸0.52mの長方形と推定され，深さは9cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－74°－Wである。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。各層の含有物から人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

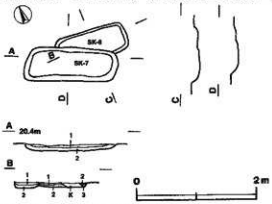
所見　遺物は出土していないが，第4号土坑と同様に，当遺跡内の他の墓壙と形状が似ており，近世の墓壙の可能性が考えられる。

第７号土坑（第８図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１c8区。

重複関係　第６号土坑の南西部を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.52m，短軸0.56mの長方形，深さは14cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は，Ｎ－56°－Ｗである。底面は平坦である。



第８図　第６・７号土坑実測図

覆土　２層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物などを含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片１点が，出土している。

所見　時期は，中・近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。

第８号土坑（第９図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１c8区。

重複関係　第９号土坑の東部を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.07m，短径0.78mの楕円形と推定される。深さは12cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は，Ｎ－37°－Ｗである。底面は平坦である。

覆土　４層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物などを含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片１点が，出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世と思われる。他の土坑とは，形状が異なり性格は不明である。

第９号土坑（第９図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１c8区。

重複関係　第８号及び第10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸0.88m，確認できた短軸は0.37mで，長方形と推定される。深さは８cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は，Ｎ－64°－Ｗである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物出土状況　土師質土器の椀１点が，出土している。

所見　第８号及び第10号土坑に掘り込まれており，遺存状態がよくない。本跡の時期は，出土遺物から近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。第10図１の土師質の椀は，中央部の床面から出土している。

第10号土坑（第９図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１c8区。

重複関係　第９号土坑を掘り込んでいる。

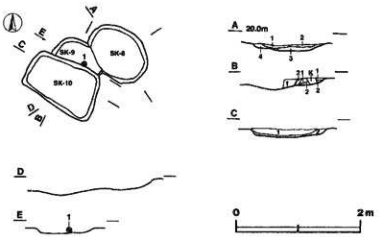
規模と形状　長軸1.21m，短軸0.77mの長方形で，深さは12cmである。壁は外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－63°－Wである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

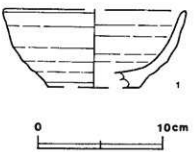
土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器の皿１点が，出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。



第９図　第8・９・10号土坑実測図



第10図　第9号土坑出土遺物実測図

第９号土坑出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
1	土師質	椀	[14.5]	6.2	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面内・外面ロクロナデ，内面に強いロクロ目	中央部床面	20%　PL.9

第11号土坑（第11図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１d8区。

重複関係　第12号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.19m，短軸1.08mの長方形で，深さは20cmである。壁は外傾して立ち上がる。長径方向は，N－67°－Wである。底面は平坦である。

覆土　５層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物などを含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

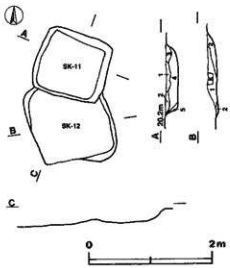
土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　暗　褐　色　　ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙１点，擂鉢１点が出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世と思われる。また，形状から墓壙の可能性が高い。

第12号土坑（第11図）

位置　調査区の中央部，Ｂ１d8区。



第11図　第11・12号土坑実測図

重複関係　第11号土坑及び第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸1.44m，短軸1.28mの長方形，深さは13cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－21°－Wである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。ロームブロックや焼土，炭化物などを含んでいることから，人為堆積の可能性が高い。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	褐		色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　形状から墓壙の可能性が高い。時期は，当遺跡内の形状が類似する土坑から推定すると，中・近世と考えられる。

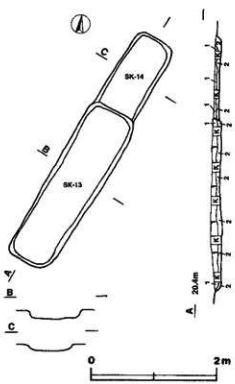
第13号土坑（第12図）

位置　調査区の東部，Ｂ１c9区。

重複関係　第14号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.77m，短軸0.84mの長方形，深さは14cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－29°－Eである。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。



第12図　第13・14号土坑実測図

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　形状から墓壙の可能性が高い。また時期は，当遺跡内の形状が類似する土坑から推定すると，中・近世と考えられる。

第14号土坑（第12図）

位置　調査区の東部，Ｂ１c9区。

重複関係　南部を第13号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　検出した範囲の，長軸は1.34m，短軸は0.70mで，長方形と推定され，深さは10cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－29°－Eである。底面は平坦である。

覆土　2層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　形状から墓壙の可能性が高い。また時期は，当遺跡内の形状が類似する土坑から推定すると，中・近世と考えられる。

第15号土坑（第13図）

位置　調査区の東部，Ｂ１d8区。

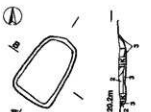
規模と形状　長軸1.17m，短軸0.73mの長方形で，深さは10cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－28°－Eである。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。土層の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　形状から墓壙の可能性が高い。また時期は，当遺跡内の形状が類似する土坑から推定すると，中・近世と考えられる。



第13図　第15号土坑実測図

第16号土坑（第14図）

位置　調査区の東部。Ｂ１d9区。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

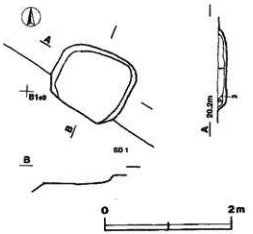
規模と形状　長軸1.28m，短軸1.06mの長方形，深さは13cmである。壁は，緩やかに外傾して立ち上がる。長軸方向は，N－58°－Wである。底面は平坦である。

覆土　3層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　褐　　色　　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　形状から墓壙の可能性が高い。また時期は，当遺跡内の形状が類似する土坑から，中・近世と考えられる。



第14図　第16号土坑実測図

(2) 井戸跡

第2号井戸跡（第15図）

位置　調査区の中央部，B 1 c7区。

重複関係　本跡の覆土上に，第1号溝が構築されている。また，第4号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長径3.20m，短径2.79mの楕円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方が漏斗状，下方が円筒上を呈する。深さは1.96mである。長径方向は，N－40°－Wである。

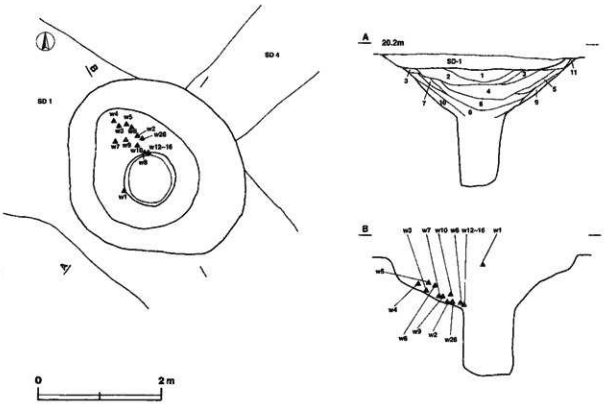
覆土　観察できたのは，第1号溝の土層も含めて確認面から1mの深さまでである。11層からなる。レンズ状に堆積しており，自然堆積と思われる。

土層解説

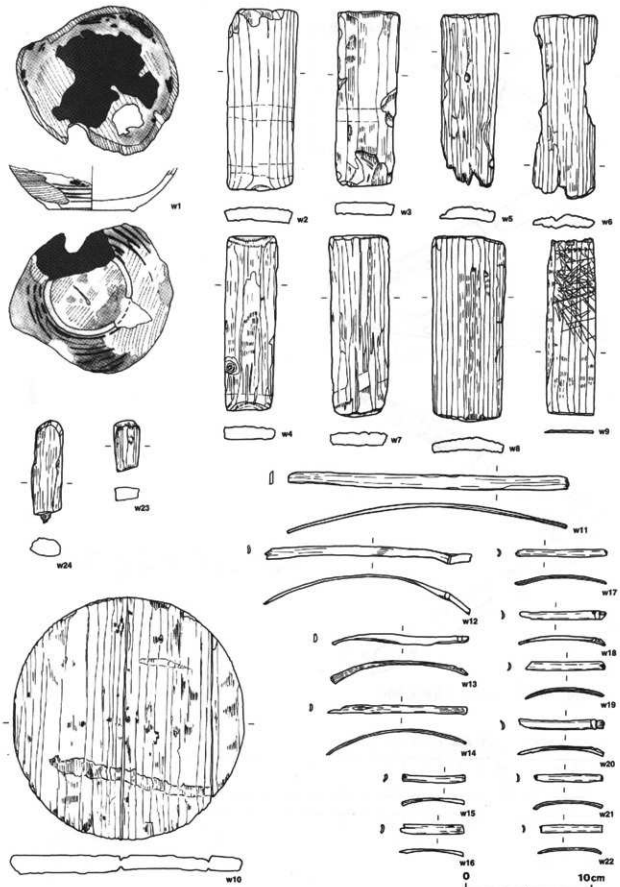
1	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2	暗　褐　色	ローム粒子多量
3	黒　褐　色	ローム粒子・粘土粒子少量
4	暗　褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
5	灰　褐　色	ローム粒子少量
6	暗　褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
7	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
8	褐　　色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
9	灰　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物・粘土粒子微量
10	灰　褐　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，粘土粒子少量
11	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量

遺物出土状況　漆器の椀1点，木製の桶の各部分が合わせて21点，木製の荷鞍2点，土師質土器の焙烙片5点，この他木片29点が出土している。第16図木製の桶は，北西部の覆土中層から集中して出土している。これは，廃棄のため井戸へ投げ込んだ可能性が高い。第17図W26の木製の荷鞍は，北西部の覆土中層から出土している。

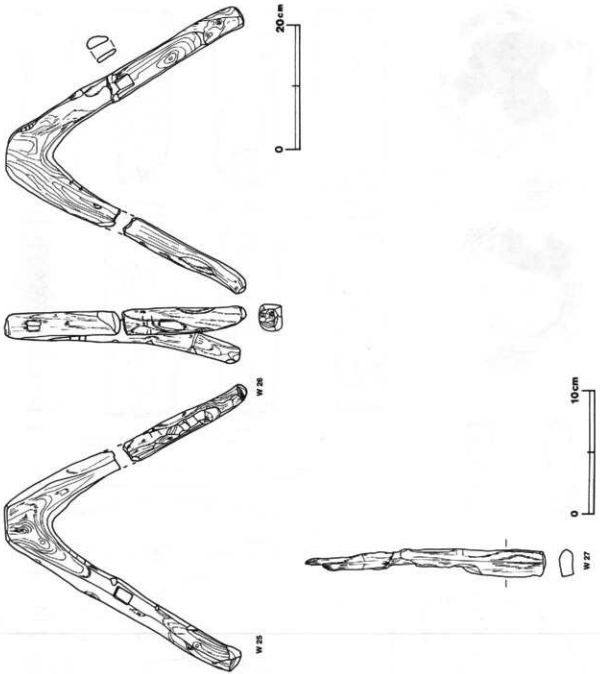
所見　時期は，出土遺物から中・近世（16～17世紀）と思われる。



第15図　第2号井戸跡実測図



第16図　第２号井戸跡出土遺物実測図(1)



第17図　第２号井戸跡出土遺物実測図(2)

第２号井戸跡出土遺物観察表（第16・17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	特徴	出土位置	備考
W1	木器	椀	－	(3.5)	6.8	底部から口縁部片。低い高台を持つ。一部火を受けて炭化。歪が一部遺存。	中央部覆土上層	60%　PL10

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
W2	桶	(14.5)	5.5	0.9	(55.9)	ヒノキ	側板。板目。外面に旋の痕。	西部覆土上層	PL10
W3	桶	(14.0)	4.9	1.1	(45.9)	ヒノキ	側板。板目。外面に旋の痕。	中央部覆土上層	PL10
W4	桶	14.0	4.2	1.1	38.4	ヒノキ	側板。板目。外面に旋の痕。	覆土中	PL10
W5	桶	(13.9)	4.6	1.2	(32.4)	ヒノキ	側板。板目。	覆土中	PL10

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
W6	桶	14.7	5.1	1.1	(28.9)	ヒノキ	鏡板。板目。	北西部覆土中層	PL10
W7	桶	14.4	4.9	1.1	43.8	ヒノキ	鏡板。板目。外面に箍の痕。	北西部覆土中層	PL10
W8	桶	14.8	6.0	1.2	56.3	ヒノキ	鏡板。板目。外面に箍の痕。	中央部覆土中層	PL10
W9	不明	14.1	4.0	0.2	(9.4)	ヒノキ	薄く，扁平。	北西部覆土中層	PL10
W10	桶	19.1	18.3	1.6	298.1	ヒノキ	底板。柾目。五枚継。	北西部覆土中層	PL10
W11	桶	(22.4)	1.2	0.3	(4.2)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W12	桶	(16.4)	0.7	0.2	(1.5)	タケ	桶の箍の一部。	中央部覆土中層	PL10
W13	桶	(10.9)	0.6	0.3	(1.0)	タケ	桶の箍の一部。	中央部覆土中層	PL10
W14	桶	(11.1)	0.6	0.2	(0.7)	タケ	桶の箍の一部。	中央部覆土中層	PL10
W15	桶	(5.0)	0.6	0.3	(0.3)	タケ	桶の箍の一部。	中央部覆土中層	PL10
W16	桶	(5.1)	0.8	0.2	(0.3)	タケ	桶の箍の一部。	中央部覆土中層	PL10
W17	桶	(7.3)	0.7	0.1	(0.5)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W18	桶	(6.9)	0.7	0.1	(0.6)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W19	桶	(6.8)	0.8	0.1	(0.5)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W20	桶	(6.8)	0.8	0.1	(0.5)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W21	桶	(5.5)	0.6	0.1	(0.3)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W22	桶	(5.0)	0.6	0.1	(0.3)	タケ	桶の箍の一部。	覆土中	
W23	不明	(4.0)	2.1	1.1	(6.1)	ヒノキ	端部に擊の痕。	覆土中	
W24	不明	(8.2)	2.4	1.5	(15.4)	ヒノキ	ほぞの痕。端部に擊痕が看取される。	覆土中	
W25	荷籠	38.0	(36.0)	4.3	(788.2)	ヒノキ	弦孔。27×17mのほぞ穴。ほぞ穴の内面には擊痕。	覆土中	PL10
W26	荷籠	22.1	4.5	4.2	181.1	ヒノキ	W25と同一関係。端部にはほぞ穴の痕が残る。	北西部覆土中層	PL10
W27	不明	(19.5)	2.3	1.1	(18.9)	ヒノキ	断面は四角形。桶の一部か。	覆土中	

第3号井戸跡（第18図）

位置　調査区の北西部，B 1 b7区。

規模と形状　長径2.86m，短径2.43mの楕円形を呈する素掘りの井戸跡である。断面の形状は，上方が漏斗状を呈し，確認面から0.7～0.8mの深さにテラス状の段を持つ。0.8m以下は円筒状に掘り込まれているが，底面付近の壁から南東方向に長さ0.2m，深さ0.3mほど掘り込まれている。長径方向は，N－21°－Eである。

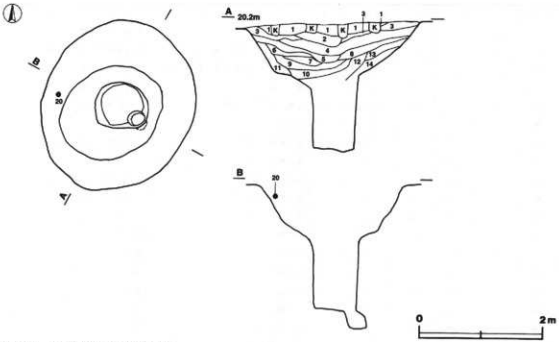
覆土　観察できたのは確認面から0.95mの深さまでである。14層からなる。ロームブロック等を含み，また各層がブロック状に堆積していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

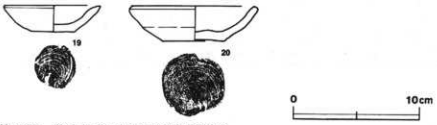
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
6　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
9　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10　灰褐色　ローム粒子少量
11　褐灰色　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
12　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
13　褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片41点，土師質土器の皿片４点，木片１点が出土している。いずれも破片で，図示できたのは２点であった。土師質土器の焙烙や皿は覆土上層から出土したものが多く，木片は覆土中層から出土している。第19図20の皿は西部の覆土上層から，19の皿は，覆土中から出土している。

所見　時期は，中・近世（16～17世紀）と思われる。



第18図　第３号井戸跡実測図



第19図　第３号井戸跡出土遺物実測図

第３号井戸跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
19	土師質	灯明皿	7.7	2.2	3.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ，底部回転糸切り．	覆土中	90%
20	土師質	甕	9.8	2.8	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ナデ，底部回転糸切り．	西部覆土上層	60%　PL 9

(3)　溝

第１号溝（第22図）

位置　調査区の南東部～北西部，Ｂ１c5～Ｂ１e9区。

重複関係　第２号溝の覆土を掘り込み，第１号井戸に掘り込まれている。また，覆土の堆積状況から，第２号井戸が自然に埋まった後に構築されたものと考えられる。さらに第12・16号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｂ１e9区から北西方向（N－59°－W）に，直線的に延びる。南東部及び北西部は，調査区域外に延びているため，規模は不明であり，確認できた長さは18.45mである。上幅2.65～3.85m，下幅0.30～0.38m，深さは24cmである。断面形は，ほぼU字形を呈する。

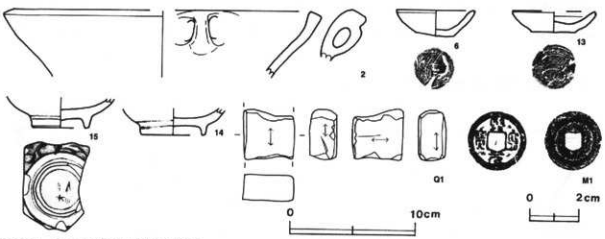
覆土　16層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と思われる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
3　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4　灰　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子微量

5　灰　褐　色　　ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
6　暗　褐　色　　ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物出土状況　北西部の底面を中心に出土している。土師質土器の焙烙片154点，擂鉢片14点，皿片11点，甕片2点，陶器片4点等が出土している。第20図2の土師質土器の焙烙と13の土師質の灯明皿は西部の底面から，14の陶器の碗は中央部の底面から，15の磁器の碗は北部の底面から，M1の古銭は中央部の底面から出土している。Q1の砥石は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世（16～17世紀）の可能性が高い。



第20図　第1号溝出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
2	土師質	焙烙	[25.2]	(5.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	1内耳残存。体部内・外面ナデ。	西部底面	5％
6	土師質	灯明皿	6.3	2.1	3.0	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ，底部回転糸切り。	中央部底面	100％　PL9
13	土師質	灯明皿	[6.6]	1.7	3.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内・外面ナデ，底部回転糸切り。	西部底面	60％

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	絵付	釉薬	産地	年代	出土位置	備考
14	陶器	碗	－	(2.1)	5.0	灰白	灰白		透明	肥前系	18C初頭	中央部底面	20％　PL9
15	磁器	碗	－	(2.4)	4.4	灰白	灰白	草花文	透明	肥前系	18C初頭	北部底面	30％　PL9

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(4.0)	4.0	2.2	(55.6)	凝灰岩	4面使用表面に使用痕	覆土中	

番号	銭銘	径(cm)	口径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鋳年代（西暦）	出土位置	備考
M1	熙寧元寶	2.4	0.7	0.1	2.2	北宋（1068年）	中央部底面	

第2号溝（第22図）

位置　調査区の南部，B1d6～B1e9区。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。また，第12・16号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　A1e9区から北西方向（N－70°－W）に，やや湾曲しながら延びる。東部及び西部が調査区域外に延びているため，規模は不明であり，確認できた長さは14.1mである。上幅2.55～2.62m，下幅1.86～2.02m，深さは30cmである。断面形は，ほぼU字形を呈する。

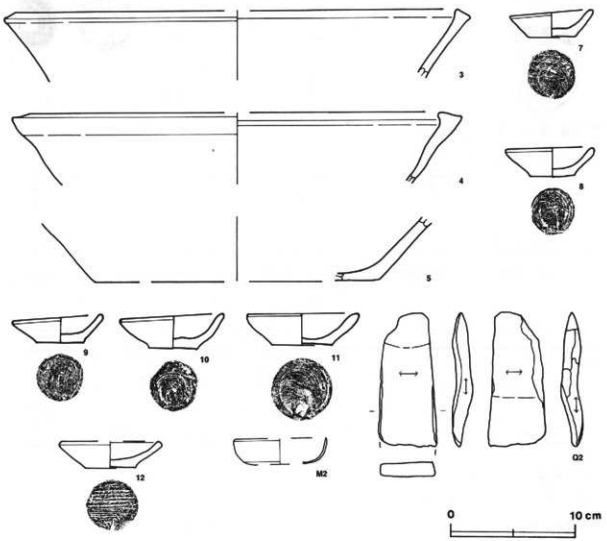
覆土　9層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と思われる。

土層解説

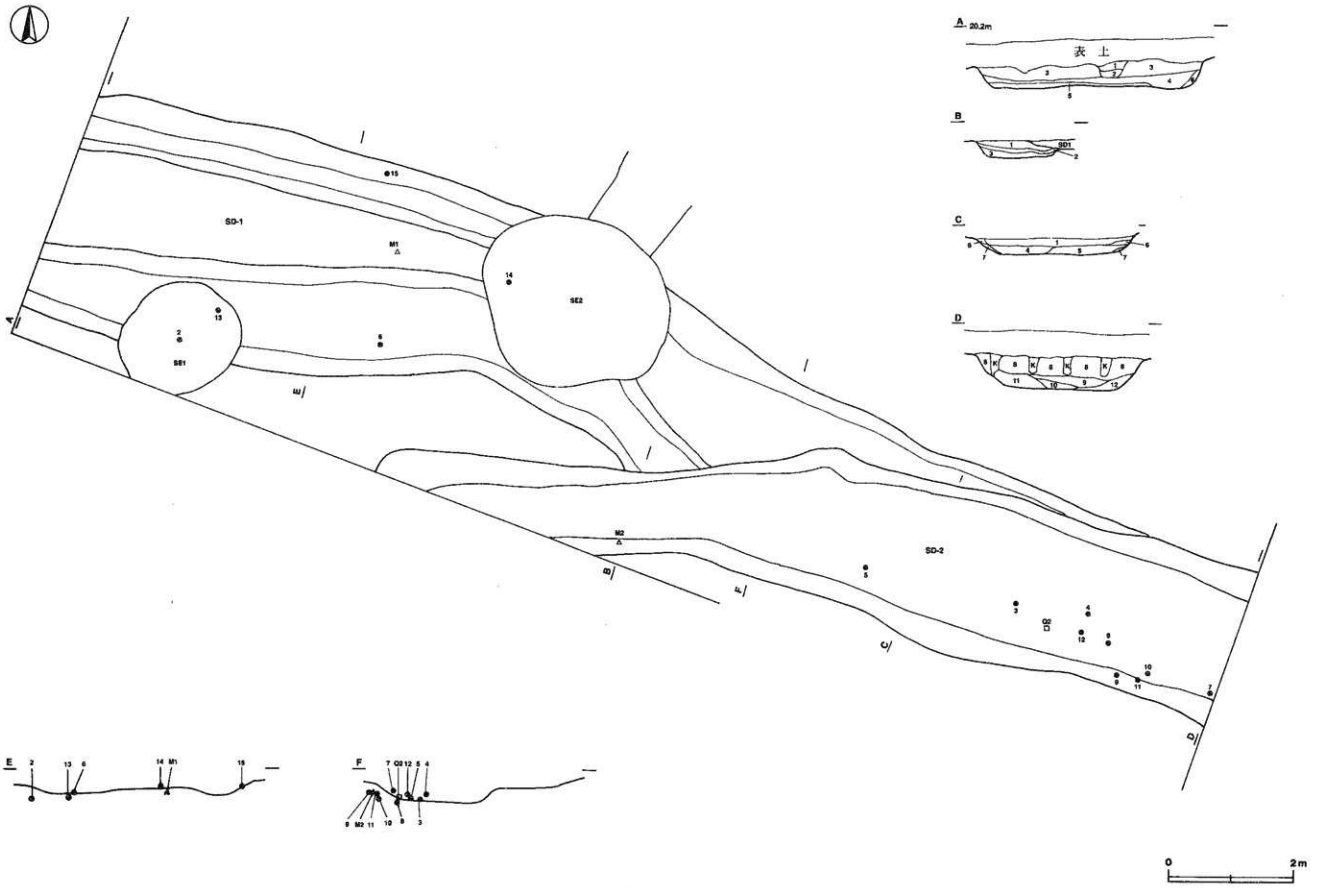
1	黒	褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3	黒	褐 色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
4	黒	褐 色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
5	黒	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
6	暗	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
7	黒	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
8	灰	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
9	黒	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10	灰	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
11	黒	褐 色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，粘土粒子微量
12	黒	褐 色	ローム粒子・ローム小ブロック中量

遺物出土状況　遺物は，東部の底面を中心に出土している。土師質土器の焙烙片5点，皿片6点，砥石1点，銅製品の小鈴1点が出土している。第21図5の土師質土器の焙烙とM2の小鈴以外は，東部の底面から出土している。

所見　時期は，出土遺物から中・近世（16～17世紀）と思われる。



第21図　第2号溝出土遺物実測図



第22図　第1・2号溝実測図

第２号溝出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
3	土師質	坩堝	[37.2]	(5.5)	－	長石・石英	暗褐	普通	口縁部片。体部内・外面ナデ。	東部底面	5% PL 9
4	土師質	坩堝	[35.8]	(5.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部片。体部内・外面ナデ。	東部底面	5% PL 9
5	土師質	坩堝	－	(5.1)	[22.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部片。体部内・外面ナデ。	中央部底面	10% PL 9
7	土師質	灯明皿	6.9	2.2	3.8	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100% 二個体判別
8	土師質	灯明皿	7.2	2.3	3.6	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100% PL 9
9	土師質	灯明皿	7.2	2.2	3.6	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100% PL 9
10	土師質	灯明皿	8.3	2.4	3.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100% PL 9
11	土師質	灯明皿	9.0	2.5	4.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100% PL 9
12	土師質	灯明皿	[7.8]	2.1	4.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ナデ。底部回転糸切り。	東部底面	100%

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	出土位置	備考
Q2	砥石	10.6	4.6	1.7	78.4	凝灰岩	3面使用	東部底面	

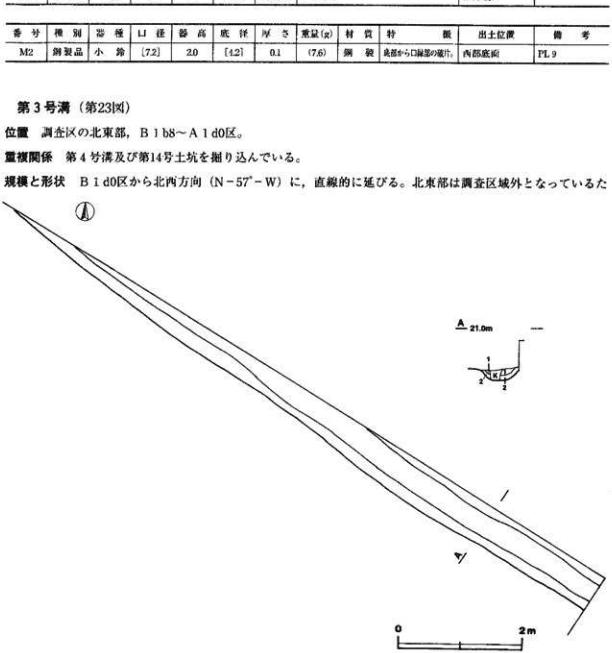
番号	種別	器種	口径	器高	底径	厚さ	重量(g)	材質	特徴	出土位置	備考
M2	銅製品	小鈴	[7.2]	2.0	[4.2]	0.1	(7.6)	銅	装	東部から口縁部の破片。	西部底面	PL 9

第３号溝（第23図）

位置　調査区の北東部，Ｂ１b8～Ａ１d0区。

重複関係　第４号溝及び第14号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｂ１d0区から北西方向（N－57°－W）に，直線的に延びる。北東部は調査区域外となっているた



第23図　第３号溝実測図

め，規模は不明であり，確認できた長さは11.35m，上幅ほぼ0.65m，下幅0.31～0.38m，深さは16cmである。断面形はU字形を呈する。

覆土　2層からなる。レンズ状の堆積状況がみられることから，自然堆積と思われる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物出土状況　大部分が，調査区域外となっているため，出土量は少なく，土師質土器の焙烙片1点，皿片1点だけである。図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土遺物は少ないが，土師質土器の焙烙や皿から，中・近世（16～17世紀）と考えられる。

第4号溝（第24図）

位置　調査区の北東部から中央部，B 1 c7～B 1 b8区。

重複関係　第2号井戸に掘り込まれている。

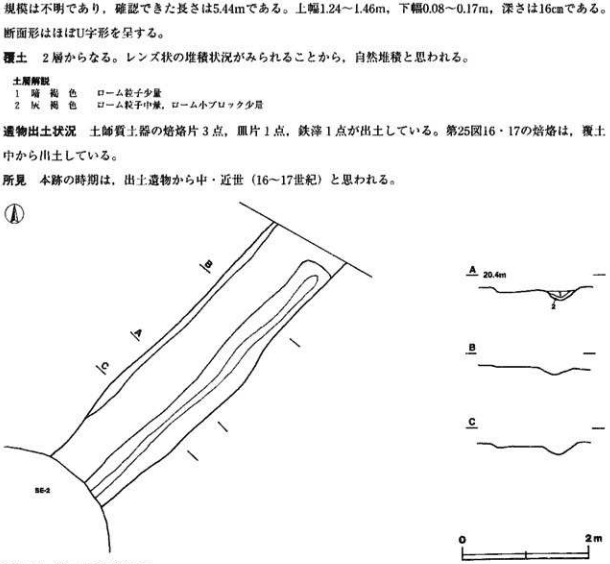
規模と形状　B 1 c7区から北東方向（N－45°－E）に，直線的に延びる。北東部は調査区域外に延びているため，規模は不明であり，確認できた長さは5.44mである。上幅1.24～1.46m，下幅0.08～0.17m，深さは16cmである。断面形はほぼU字形を呈する。

覆土　2層からなる。レンズ状の堆積状況がみられることから，自然堆積と思われる。

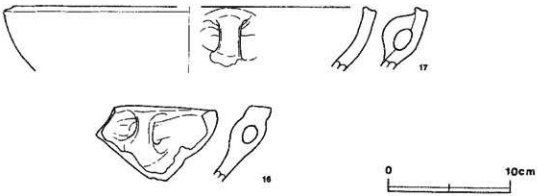
土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子少量
2　灰　褐　色　　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物出土状況　土師質土器の焙烙片3点，皿片1点，鉄滓1点が出土している。第25図16・17の焙烙は，覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から中・近世（16～17世紀）と思われる。



第24図　第4号溝実測図



第25図　第４号溝出土遺物実測図

第４号溝出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
16	土師質	坩堝	－	(6.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	1内耳現存，体部内・外面ナデ，	覆土中	5％　PL.9
17	土師質	坩堝	[30.2]	(5.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	1内耳現存，体部内・外面ナデ，	覆土中	5％　PL.9

2　時期不明の遺構と遺物

遺構調査の結果，井戸跡１基及び土坑１基が検出された。これらの遺構からは，遺物が出土しておらず，時期を限定することが難しい。よって時期不明とした。

(1)　土坑

第17号土坑（第26図）

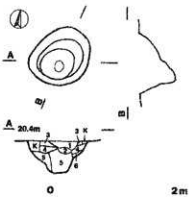
位置　調査区の東部，Ｂ１d9区。

規模と形状　径0.90～0.98mの不整円形，深さは58cmである。壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
2	褐　　色	ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
4	暗　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
5	灰　褐　色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，ローム中ブロック・粘土小ブロック微量
6	褐　　色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム粒子少量



第26図　第17号土坑実測図

遺物出土状況　遺物は，出土していない。

所見　時期は，出土遺物がなく不明である。

(2)　井戸跡

第１号井戸跡（第27図）

位置　調査区の西部，Ｂ１c5区。

重複関係　第１号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.98m，短径1.76mの楕円形を呈する素掘りの井戸である。断面の形状は，上方が漏斗状，下

方が円筒状を呈する。深さは1.62mである。長径方向は，N－88°－Wである。

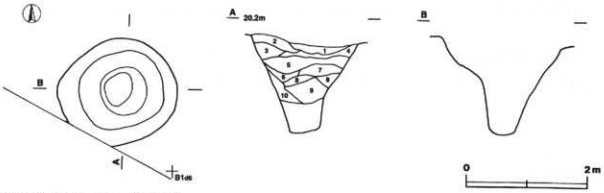
覆土　観察できたのは，確認面から1.1mの深さまでである。10層からなる。堆積状況からみて，人為堆積と思われる。

土層解説

1	灰	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3	暗	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック微量
4	黒	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
5	暗	褐	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・粘土粒子微量
6	暗	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
7	黒	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・粘土小ブロック微量
8	褐	灰	色	粘土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック少量，粘土中ブロック微量
9	褐		色	粘土粒子多量，粘土小ブロック中量，粘土中ブロック小量，粘土大ブロック微量
10	黒	褐	色	粘土粒子少量，粘土小ブロック微量

遺物出土状況　木片１点が出土している。

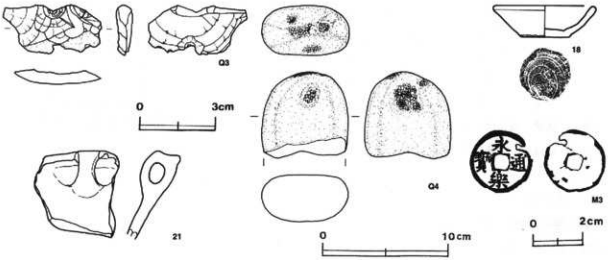
所見　時期は，隣接する墓跡に関連するとすれば，中・近世（16～17世紀）の可能性はあるが，限定できる遺物が出土しておらず，不明とした。



第27図　第１号井戸跡実測図

3　遺構外出土遺物

今回の調査で，遺構に伴わない旧石器から中・近世の遺物が出土している。ここでは，これらの出土遺物を一括して実測図（第28図）と観察表で記載する。



第28図　第１号井戸跡実測図

遺構外出土遺物観察表（第28図）

番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	特徴	出土位置	備考
Q 3	剥片	4.0	7.8	1.3	32.8	安山岩	厚手の不定形の剥片。下部に離面。	表土中	
Q 4	磨石	(7.0)	6.9	4.0	(256.3)	安山岩	自然礫を利用。	表土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	釉上	色調	硬軟	手法	出土位置	備考
18	土師質	皿	8.3	2.5	4.0	石英	灰白	普通	体部内・外面ヨコナデ、底部糸切り。	表土中	90% PL 9
21	土師質	培烙	－	(7.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	1内耳残存。体部内・外面ナデ。	表土中	5% PL 9

番号	銭名	径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	初鋳年代（西暦）	出土位置	備考
M 3	永楽通寶	2.5	0.7	0.1	2.0	明（1408年）	表土中	

第4節　ま　と　め

今回の調査で，稲岡遺跡から検出された遺構は，井戸跡3基，土坑17基，溝4条である。出土遺物は，中世から近世にかけての，土師質土器や陶磁器が中心である。以下，遺構と遺物に分けて概要を述べ，まとめとしたい。

1　遺物について

当遺跡から出土している遺物は，点数的に多いものでは，在地のものと思われる土師質土器の焙烙，皿，擂鉢，陶磁器の碗，皿，銅製の小鈴，古銭，木製品等がある。

第2号井戸跡から木製の漆器の碗，桶，荷鞍が出土している。木製品あるいは木片は，第3号井戸跡からも出土している。漆器の碗は，焼けた部分はあるが，一部に漆が残っている。荷鞍は，農耕用あるいは運搬用の牛あるいは馬の荷鞍の一部と思われる。桶は，壊れた状態で出土しているが，各部分の依存状態は良好であった。当時の人々の生活の跡が窺われる。

陶磁器の時期は，古くは14世紀代のものから18世紀代のものまで幅広く出土しているが，遺物の量から判断し，16から17世紀が中心になると思われる。陶磁器の年代から判断して，当遺跡の中心となる時期も，中世末から近世（16～17世紀）と考えられる。

2　遺構について

当遺跡から検出された遺構は，井戸跡2基，土坑16基，溝4条が中心で，中世末から近世のものと思われる。この他の井戸跡1基，土坑1基については，遺物が出土しておらず，他の遺構と様相が異なるので時期不明としたが，中・近世の可能性は否定できない。

土坑の形状は，ほとんどが長方形で，第17号土坑だけが円形である。規模は，長軸が最大で2.77m，短軸が最大で1.28mのものがあるが，平均すると長軸1.3m，短軸0.8m程度である。深さは平均で14.3cmで，第17号土坑だけが58cmある。平面形，深さとも第17号土坑は特殊である。土坑は，その形状や周辺からの出土遺物から判断して，墓壙の可能性が高いと考えられる。

溝は4条確認され，第1・2号溝は，上幅が2.6～3.9mで，1.2～1.4mの第4号溝と比較すると，かなり大きい。第3号溝は，北東部が調査区域外のため，規模は不明である。

井戸跡は，第2号井戸跡と第3号井戸跡は，規模，形状，出土遺物とも類似点が多い。

当遺跡は古銭，小鈴等の出土遺物，長方形の土坑，溝，井戸跡などの全体の構造から，中・近世の墓域であったと考えられる[10]。そして，井戸跡，溝，墓壙が，墓域を構成する施設として機能していた可能性が高い。

参考文献

1）桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景－中世墓の諸相と通史的叙述への試論－」『茨城県考古学協会誌』第7号 1995年8月

表2　稲岡遺跡土坑一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ(cm)	整面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	B1b5	N－63°－W	［長方形］	(1.28) × 0.80	12	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片2点	SK-2→本跡
2	B1b6	N－66°－W	［長方形］	(1.40) × 0.62	14	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片1点，鉄片1点	本跡→SK-1
3	B1b7	N－32°－E	長方形	1.60 × 0.92	8	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片7点，擂鉢片4点，瓦片1点	SK-4→本跡
4	B1b7		不明	0.60 × (0.30)	5	不明	平坦	人為		本跡→SK-3
5	B1c8	N－55°－W	長方形	0.96 × 0.74	11	外傾	平坦	人為	陶器片1点	
6	B1c8	N－74°－W	［長方形］	1.15 × 0.52	9	外傾	平坦	人為		本跡→SK-7
7	B1c8	N－56°－W	長方形	1.52 × 0.56	14	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片1点	SK-6→本跡
8	B1c8	N－37°－W	［楕円形］	1.07 × (0.98)	12	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片1点	SK-9→本跡
9	B1c8	N－64°－W	［長方形］	0.88 × (0.37)	8	外傾	平坦	自然	土師質土器椀片1点	本跡→SK-8→SK-10
10	B1c8	N－63°－W	長方形	1.21 × 0.77	12	外傾	平坦	自然	土師質土器皿片1点	SK-9→本跡
11	B1d8	N－67°－W	長方形	1.19 × 1.08	20	外傾	平坦	人為	土師質土器焙焼片1点，擂鉢片1点	SK-12→本跡
12	B1d8	N－21°－W	長方形	1.44 × 1.28	13	緩斜	平坦	人為		本跡→SK-11
13	B1e9	N－29°－E	長方形	2.77 × 0.84	14	緩斜	平坦	自然		SK-14→本跡
14	B1e9	N－29°－E	［長方形］	(1.34) × 0.70	10	緩斜	平坦	自然		本跡→SK-13
15	B1d8	N－28°－E	長方形	1.17 × 0.73	10	外傾	平坦	人為		
16	B1d9	N－58°－W	長方形	1.28 × 1.06	13	緩斜	平坦	自然		本跡→SD-1
17	B1d9		円形	0.98 × 0.90	58	外傾	平坦	自然		

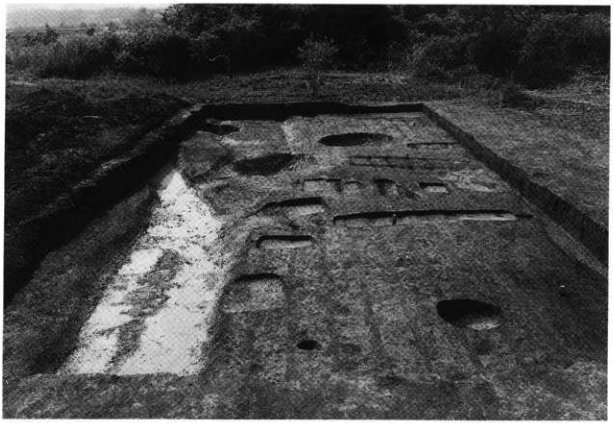
表3　稲岡遺跡井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ(cm)	壁面	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	B1c5	N－88°－W	楕円形	1.98 × 1.76	1.62	(上部)漏斗状(下部)円筒状	木片1点	
2	B1c7	N－40°－W	楕円形	3.20 × 2.79	1.96	(上部)漏斗状(下部)円筒状	鉄釘1点，木製品1点，石製品1点，土師質土器焙焼片3点	本跡→SD-1
3	B1b7	N－21°－E	楕円形	2.86 × 2.43	(0.95)	(上部)漏斗状(下部)円筒状	土師質土器焙焼片41点，瓦片1点，木片1点	

表4　稲岡遺跡溝一覧表

番号	位置	主軸方向	形状	規模 確認長(m)	規模 上幅(cm)	規模 下幅(cm)	規模 深さ(cm)	断面	底面	出土遺物	備考 新旧関係（古→新）
1	B1c5～B1e9	N－59°－W	直線	(18.45)	2.65～3.85	0.30～0.38	24	～	平坦	土師質土器焙焼片54点，擂鉢片45，鉄片1点，陶器片1点	SE-2→本跡→SE-1 SK-12・16，SD-2→本跡
2	B1d6～B1e9	N－70°－W	曲線	(14.10)	2.35～2.62	1.86～2.02	30	＼／	平坦	土師質土器焙焼片3点，鉄片3点，銅製小鐘1点，瓦片3点	
3	B1b8～B1e0	N－57°－W	直線	(11.35)	(0.65)	0.31～0.38	16	～	不明	土師質土器焙焼片1点，鉄釘1点，瓦片1点	
4	B1c7～B1d8	N－45°－E	直線	(5.44)	1.24～1.46	0.08～0.17	16	～	平坦	土師質土器焙焼片3点，瓦片1点，鉄釘1点	

写　真　図　版



完掘状況（東から）

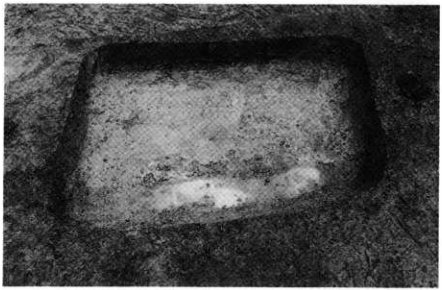
完掘状況（北から）

第1・2・3号井戸跡 完掘状況

第1・2号溝遺物出土状況

第1・2号土坑完掘状況

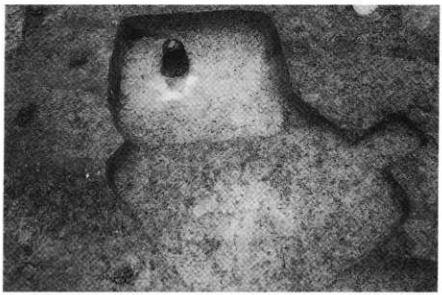
第3・4号土坑完掘状況



第5号土坑完掘状況

PL4

第8・9・10号土坑完掘状況

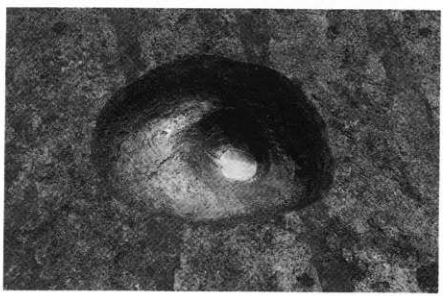


第11・12号土坑完掘状況

第13・14号土坑完掘状況

第15号土坑完掘状況

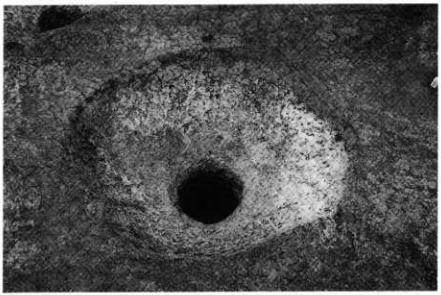
第16号土坑完掘状況



第17号土坑完掘状況

PL6

第1号井戸跡完掘状況



第2号井戸跡完掘状況

第2号井戸跡遺物出土状況

第2号井戸跡遺物出土状況

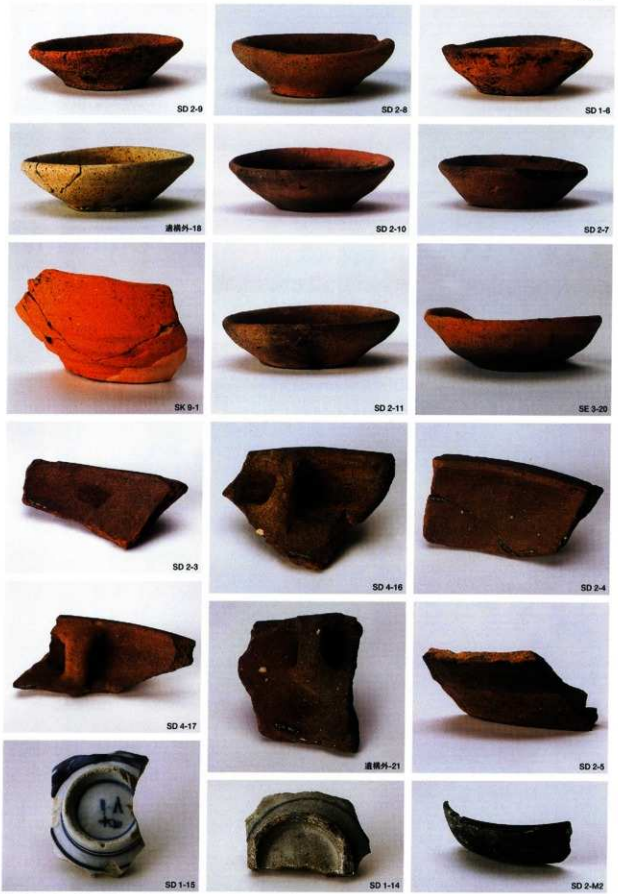
第2号井戸跡遺物出土状況

第3号井戸跡完掘状況

第1・2号溝遺物出土状況

第2号溝遺物出土状況（小鈴）

第3号溝完掘状況



第9号土坑，第3号井戸跡，第1・2・4号溝，遺構外出土遺物

SE 2-W2

SE 2-W3

SE 2-W4

SE 2-W5

SE 2-W6

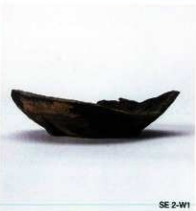
SE 2-W7

SE 2-W8

SE 2-W9

SE 2-W10

SE 2-W12~16


SE 2-W1

SE 2-W25・26

第2号井戸跡出土遺物

08-1
002-001
187-1-10

茨城県教育財団文化財調査報告第187集

稲 岡 遺 跡

平成14年（2002）年3月20日　印刷
平成14年（2002）年3月25日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
ＴＥＬ　029－225－6587

印刷　ワタヒキ印刷株式会社
〒310－0012水戸市城東1－5－21
ＴＥＬ　029－221－4381

茨城県
財団
14.4.5
039313
収蔵